

【作文の部】 文芸賞

定期演奏会

本郷小学校 五年 吉田 いち花

夏休みにおぼといとこと、高校の吹奏楽部の定期演奏会を見に行きました。私は高校の体育館などで行われると思っていきましたが、着いたのは會津風雅堂という所でとても大きなホールでした。

少しうす暗くて、通路にはじゅうたんがしいてあり、足音や声のすい込まれていくような感じがしました。なぜかちよつと不安になり、急ぎ足でおぼの後ろを追いかけました。王様の部屋の入り口のような大きな重いドアを開けると、体全体がすごく小さくなった感じがしました。まるで不思議の国のアリスになった気分でした。

一番前の席にすわって開演を待ちました。まわりを見まわしていると、どんだん人が入ってきましたが、演奏者の家族というより、「お客様」という感じがしました。急に開演のブザーがなり、私は少しとび上がってしまいました。幕が少しずつあがり、ステージの光が広がっていくと、私の目と口も開いていくのが分かりました。

曲名は分かりませんが、どこかで聞いたことがある音楽が続きました。音楽に合わせて楽器の金ぞく部分がキラキラ光っていました。音が集まっておなかの中までひ

びく感かくがくすぐったい感じがしました。

デイズニーの曲がはじまると、一人が立ち上がりソロ演奏がはじまりました。私が初めて見る楽器をふいてました。一人で演奏しているのに、どうどうとしていてキラキラしてすきとおるような音でした。アリエルの曲でしたが、本当に海の中をイメージできました。私は急いでパンフレットをめくりました。オーボエという楽器でした。演奏しているのは、なんと高校一年生でした。それからの演奏はずっとオーボエに夢中になってしまいました。

演奏会が終わり、ふわふわしながら家に帰りました。その日はねるまでふわふわしていました。オーボエのことしか頭にありませんでした。

すぐに楽器を買うことはできないけれど、今からでも練習することはできると思いました。「まわりの人の音や声にきがついて協力すること」です。私はソロ演奏にはかり夢中になっていましたが演奏を支えて引き立てるための伴奏があったことに気がつきました。目立たないけれど、自分の役わりをきっちりやり、協力することを心がけたいと思いました。そしていつか私もオーボエを演奏してみたいと思いました。

